

日時：令和2年(2020年)9月1日(火) 13:30~16:00

場所：市役所 3-3 会議室

欠席委員：なし

傍聴者：1名

委員長	開会 では、令和2年度第5回宝塚市行政評価委員会を始める。
委員長	傍聴希望者の確認 傍聴者はあるか。
事務局	本日の傍聴者は1名である。 既に入室してもらっている。
委員長	アイズブレイクの実施 9/1 防災の日。個人の防災の備えで重視していること。
事務局	議事録の確認 < 第四回議事録の説明 >
委員長	議事録の内容について、各委員から修正等はないか。
委員長	議題「令和2年度行政評価（平成31年度実施分）について」 議題「令和2年度行政評価（平成31年度実施分）について」に入る。 事務局より説明をお願いする。
事務局	本日の審議対象施策は、「児童福祉」「青少年育成」の施策である。 担当部より施策の説明の後、質疑という形で進める。
担当室長	< 施策の説明 > < 各施策審議 >

<p>【基本目標】教育・子ども・人権 【施策】児童福祉 【施策展開の方針】『1 すべての子どもと家庭への支援の充実を図ります』</p>	
委員	<p>2点質問がある。1点目は「母子保健訪問指導事業（再掲）」の対象のところに「妊娠中の女子」や「出産後1年未満の女子」という表現があるが、女性という表現にしてはどうか。2点目は「障害児相談支援事業（再掲）」で、「就学前の新規利用を受け入れる事業所が少ないため申し込みから1か月半くらい待ち期間がある。」とあるが、現状は全て対応できているのか。</p>
子ども家庭室長	<p>最終的には対応できているが、増えている新規利用者の民間事業所などでの受け入れなどについては障害福祉課も含めて対応を確認する。</p>
健康推進室長	<p>女子という書き方は、母子保健法の中で同じ表現が使われている。</p>
委員	<p>児童福祉の中でも、すべての子どもと家庭への支援の充実を図りますということはとてもデリケートで需要も多く、大変だと思う。児童虐待相談対応件数やファミリーサポート事業延べ利用回数も増えていることを考えると、施策展開の方針を取り巻く環境の変化の欄が特になしというのは少し違和感がある。事業をやっている現場に行けば、最近の傾向や増えている特徴、要因などが何か分かるのではないかな。もう少し丁寧に把握する必要があると思う。</p> <p>また、児童虐待管理件数の終了率というのが、どれだけの期間の何に対する率なのかが分かりにくい。この指標がどういう意味を持つのかも分かりにくいと感じる。相談に対応する職員一人当たりの対応人数などにすれば、他市と比較することでどれだけ忙しいか、逼迫しているが分かる指標になるのではないかな。</p>
委員長	<p>環境変化を特になしとする選択肢ももちろんある。ここは昨年の政策を評価する上での環境の変化について記載するものであり、その後、コロナの影響で景気も悪くなり、子ども関係の状況も悪化しているが、その影響は次回になると思う。委員からはそれ以外にも環境変化が何かあるのではないかなという指摘があった。</p>
子ども家庭室長	<p>全国的に増えているという傾向はある。関係者への周知も行き届いてきており、これまで発見できていなかったものが数字としてあがってきている。</p> <p>また、児童虐待管理件数の終了率については、終了件数を管理件数で割っている。管理件数も毎年増加傾向にある一方で、終了する件数も増えており、概ね50%前後が傾向として出ている。</p>
委員	<p>全国が増えているからというのはあまり説得力がない。現状をもう少し丁寧に見ていただきたい。</p>
委員長	<p>この環境の変化については、もう少し記載する方がよいということであれば、委員会から指摘することもできる。</p>

委員	<p>施策評価表の参考1,2などはホームページにそのまま載るのか。</p>
事務局	<p>この表がホームページにそのまま載る。</p>
委員長	<p>過去の評価も見られるようになっている。一般の方にも説明責任の一環で見ても良かったらいいということで掲載している。前々年度の行政評価委員会の評価は、以前は3年で1周していたのが、4年で1周となったためにめったに載らなくなってしまった。前回行った外部評価の結果が載ればいいのだが、それは仕様上難しいという話であった。</p>
委員長	<p>事務事業の「次世代育成支援行動計画等推進事業」においては、子ども審議会開催やたからづかキッズのホームページの作成などを行っている。予算額も年々伸びてきており、H31年度は2000万円を超えている。こういった事業に使われているのか知りたい。</p>
子ども家庭室長	<p>本計画は5年毎に更新しており、H31年度に後期計画を策定した。その関係で審議会の開催や、冊子の作成などの経費が増えており、H31年度予算額に反映されている。計画に基づき、次年度以降の事業を進めていく。</p>
委員長	<p>内訳がないため、これ以上精査できない。先ほどの話で出た冊子の作製や審議会の開催などをしたとしても、2,000万円もかかるはずがないと思う。費用に対する効果も見える形で示してほしい。たからづかキッズのホームページなどもいい取り組みだと思うが、お金はかかったと思われる。その支出は2018年度に出ているはずだが、2019年度が高いのはなぜかと思った。子どもの声を聞き、相乗効果でこのコンテンツを育てて、費用対効果を高めてほしいと思う。</p> <p>また、地方創生の取り組みが今年から第2期となっている中で、地域でこれからを担う若い世代の活躍の場を作るということも重要なテーマとなっている。地方に行くと大学がないため、高校生などをターゲットに、こういうコンテンツをうまく使ってもらいたいと期待している。</p>
子ども家庭室長	<p>計画策定に係る委託料や委員報酬として、例年に比べ560万円程度ふえている。今年度予算は元に戻っている。</p>
委員長	<p>子ども審議会や子ども議会がコロナの関係で中止となっているが、慎重すぎると思う。開く方向で検討してもよかったのではないか。</p>
子ども家庭室長	<p>今年度の子ども議会はコロナの関係で中止とさせていただいたが、代替事業として、子どもの意見聴取事業の実施を考えている。10月から、小学4年生から高校3年生までの生徒を対象に、意見を聴取する事業を検討している。</p>
委員	<p>施策では「障がいや発達の遅れなどで配慮を要する子どもと家庭への支援に取り組めます」とあるが、障害児ケアについての指標がない。事務事業にも障害児相談支援事業や保育所等訪問支援事業等があるが、障害児支援については、事業者の数</p>

<p>委員長</p>	<p>も増えていることから、質の良くない事業者もいたという事例も聞いている。そのあたりもしっかり指標化する努力をしてもらいたい。また、子どもの貧困対策に関する記載もあるが、児童福祉の4つ目の細施策に新しい事務事業としてある「ひとり親家庭生活学習支援事業」をこの細施策にも入れるか、または、子どもの貧困に対する事業を新しい計画を作った後に実施していると思うので、その事業をこの細施策に入れてもいいのではないかと。</p> <p>事務事業構成の適正性のところで、推進に向けて対応策が必要を選択しており、「虐待相談件数や特別な支援を要する児童は増加傾向であることから、関係機関との連携強化や、子どもの貧困対策のあり方の検討と取組を進める必要が生じている。」としている。ここは事務事業の創設や大幅な組み換えでないのであれば、最後の総合評価の欄に書く方がよい。</p>
<p>委員</p>	<p>社会福祉法人の指導監査について、2法人の実地監査の結果、12件の指摘と助言を行ったということか。</p>
<p>子ども家庭室長</p>	<p>監査対象については5法人の中でローテーションを組み、毎年実地監査を行っている。</p>
<p>委員</p>	<p>指導監査において12件の指摘は多いのではないかと。例年と比べてどういう傾向にあるのか。</p>
<p>エイジフレンドリーシティ推進担当課長</p>	<p>社会福祉法人の監査は、児童福祉、高齢福祉、障害福祉について3～5年のローテーションで行っている。法人でも特に問題がなければ、最初の書類審査だけだが、悪質な場合には、毎年入ることもある。児童福祉関係の法人は、市内で5法人ある。社会福祉法人が阪神間に点在する場合は、管轄が県になっている。市だけに法人がある場合は、市が監査指導という立場にある。県外になると近畿厚生局というふうに分かれている。市の管轄である児童福祉関係の5法人に対しては、書類審査は毎年行うが、実地監査は毎年実施するわけではない。もし昨年度に指摘事項があったにも関わらず改善がない場合は、翌年も引き続き入る。こちらの方である程度判断して監査に行くため、恐らく実地監査における軽微な修正というのは、印鑑漏れや引継ぎの連携不足、プランの記載内容などだと考えられる。法人全体の資金運用についても問題がなければ、通常書類審査で毎年実施しているのが実態である。高齢福祉の方の法人監査はそういう状態で実施している。児童、障害なども概ね共通している。</p>
<p>委員</p>	<p>言いつばなしで終わるのではなく、後でフォローをしているのか。</p>
<p>エイジフレンドリーシティ推進担当課長</p>	<p>悪質な場合は、改善策等について文書による回答を求めている。</p>

子ども家庭室長	保育所などの施設については、子ども未来部が所管している。扱う施設によって所管部局が違い、健康福祉部と分けて実施している。
エイジフレンドリーシティ推進担当課長	子どもの方は再度確認して回答する。

<p>【基本目標】教育・子ども・人権 【施策】児童福祉 【施策展開の方針】『2 子育てと仕事の両立支援を推進します』</p>	
委員	<p>保育士の確保の件で、児童クラブの支援員の数が少ないとあるが、人材確保はどういう状況か。</p>
子ども育成室長	<p>保育所では保育士資格を持つ人材を確保している。支援員は保育士資格に限定していないため、保育所に比べてまだ確保しやすい。ただし、年度途中でやめてしまうこともあり、その場合には確保に時間がかかることがある。</p>
委員	<p>放課後児童クラブの待機児童数が増えているが、これはコロナの影響があるのか。</p>
子ども育成室長	<p>保育所と違い、放課後児童クラブは夏休みまでは児童数が増えて、以降は減っていく傾向にある。今年度は4月が高い数字だが、以降どんどん待機児童が減っている。例年より減少の幅が大きいのは、コロナの影響も一因であると思われる。</p>
委員	<p>保育の質の確保という言葉が出ているが、指標の中でも待機児童の数だけではなく、質に関わる指標、例えば保育士の確保数なども考えてみるとよいと思う。</p>
委員長	<p>この細施策は待機児童をゼロにすることを最大の目標としているものであるが、反対にずっと増えている。全国的には待機児童は減っている中で、宝塚市は増えているのはなぜか。既に住んでいる人が働きだしたのか、あるいは子育て世代が編入してきているのか、そこについて市はどう分析しているのか。</p>
子ども育成室長	<p>極端に子育て世代の転入が多くなっている訳ではなく、やはり保育所への需要が増えていると考えている。そこに整備の計画が追い付いていないと考えられる。</p>
委員長	<p>計画段階では家庭で育てるか、幼稚園に行くか、認定こども園に行く想定していた人たちが、保育所の方を望んだということもあるかもしれない。その対策としては、直接的に保育所を増やすということになるのか。または、幼稚園や認定こども園でも保育的な預かりをしており、そちらに誘導して吸収する方法もある。ただ、4～5年経っても顕著な動きがないのはいけないのではないかと。実は幼稚園や認定こども園でもいいという人にうまく情報提供をして誘導していくことができているのか。もしくはもっと早く保育所を建てられないのか。</p>
子ども育成室長	<p>窓口で保育所への申請があった際に、働き方などに応じて、幼稚園や認定こども園の案内もしている。しかし、なかなか保育所の待機児童が大きく減るような形にはなっていない。新たに整備するにも、市の財政状況から厳しくなっている。一方で、少子化の関係上、作りすぎて後から使わなくなったとなると無責任になるため、その辺りの見極めが難しい。需要と供給のバランスを考えながら、施設整備を進めていきたい。</p>

<p>委員長</p>	<p>難しいのは分かるが、5年も6年も100人以上の待機児童がいるというのは、委員会としては抜本的対策が必要であると言わざるを得ない。 幼稚園の預かり保育も順調に行われているという報告をもらっているが、現実には待機児童がいるということは、幼稚園の預かり保育ではカバーできないものがあるのではないかと感じる。</p>
<p>委員</p>	<p>「市立保育所保育実施事業」の事業概要の中に「保育に欠ける入所児童」とあるが、どういう意味なのか。もう1点は、「わかばのもり保育園整備事業」の改善シート of 事業を進める上での課題については、そもそも契約内容をどう変更したいのか。</p>
<p>子ども育成室長</p>	<p>「保育に欠ける入所児童」ではなく、「保育が必要な入所児童」の誤りである。事業を進める上での課題については、当時は私立保育所の誘致を進めており、土地の補助を市が担っていくという40年間の契約を公正証書で行った。そのため、契約期間の変更が難しいという意味でこうした文章になっている。</p>
<p>委員</p>	<p>令和20年の40年前に契約が始まったということは、平成10年頃に始まったということか。それをどう変えたいのか。</p>
<p>子ども育成室長</p>	<p>期間を終了するのは難しいと聞いているので、ここには書ききれていない。</p>
<p>委員</p>	<p>改革案のところ、使用貸借契約だと、無料で借りていることになるため、有料であれば賃貸借契約という記載になる。無料で借りているのか。</p>
<p>子ども育成室長</p>	<p>無料ではない。市が所有者から土地を借り、保育園に無償貸与している。</p>

<p>【基本目標】教育・子ども・人権 【施策】児童福祉 【施策展開の方針】『3 安全安心の子育て環境づくりを進めます』</p>	
委員長	赤ちゃんの駅は予算が発生するものではないのか。
子ども家庭室長	赤ちゃんの駅は市内に116箇所ある。増加もしくは横這い傾向にある。PRするための掲示物の老朽更新なども考えている。
委員長	これに宝塚市の自主性はどの程度出せるのか。全国的に同じものである。ほとんどの集客施設では配慮されていることもあり、今後積極的に推進していく必要性があるのか。計画の切れ目でもあり、一度立ち止まって考えてみてもいいのではないか。社会全体で子育てをするのはもちろん大事だが、役割を終えているような気がする。
委員	「放課後子ども教室推進事業（再掲2）」の事業を進める上での課題に、「新たに地域学校協働本部の設置」とあるが、どういうものか。
子ども育成室長	市内24校のうち、放課後子ども教室を実施できているのは21校である。あと3校は未実施もしくは休止となっている。1校はコーディネーターのなり手がいないため休止している。2校は児童数が多い、PTAへの協力依頼ができていない、また、遠方から通っている生徒がいるといった理由で未実施となっている。この活動は、学校協働本部を運営主体としており、そういった理由から課題として挙げている。
委員	予算付けはされているのか。
子ども育成室長	次年度予算を検討する際に聞き取りをし、次年度実施可能などところについては予算化している。
委員	安心安全に関する指標がなく、達成できているのかどうか分からない。それに関連して、防犯事業の事務事業を見ると、安全・安心カメラを230台設置しており、以前見たときよりかなり増えている。加古川市では、防犯カメラのデータをビッグデータ化して解析し、安心安全なまちづくりに活かしていく取組みを進めている。プライバシーの問題もあるが、今後そういった活用方法も視野に入れて進めてはどうか。
委員長	基本計画では、赤ちゃん連れでも出かけやすいまちというのが目標としてあったが、どうなっていると認識しているのか、また、今後どうしていくのか。
建設室長	バリアフリー化はなかなか目標通り進んでいない。市民からも要望もあるが、国の予算もバリアフリーに対しては付いていない。歩道整備は時間がかかるが、着手すると一度に100m、200m単位で進む。昨年度は中山観音駅前において、今年度は安倉地区において歩道整備を実施しており、着実に進んでいる。通学路の安全対策などとコラボして歩道整備を進められたらいいと思う。

委員	<p>武田尾駅周辺や西谷地域に関しては、安全面ではバリアフリー、防犯に関してすべて遅れているエリアである。街灯なども少なく、犯罪者に対して隙がある。武田尾駅においてバリアフリーを進める予定はないのか。</p>
建設室長	<p>鉄道事業者の方で、改札からホームまでのバリアフリー化を進めており、市内にある駅では、武田尾駅以外は全て完了している。武田尾駅は西谷の玄関口であり、市としてもJRに対して設置を依頼している。しかし、現在の駅利用者数は、バリアフリーを優先的に進める基準の数値に達していないということを聞いている。また、駅舎が高い位置にあり、構造的にどのようにバリアフリー化できるのかを検討中と聞いている。市としては、設置に向けてJRとも協議していく。</p>
委員	<p>自転車で通勤、通学をする人もいるが、曲がりくねった道や、車がすぐ横を通るような狭い道が多いため、交通安全対策も進めてほしい。通行者数は多くないが、自転車レーンの設置などは必要である。</p>
建設室長	<p>地形的にも傾斜がきつい地域もあり、自転車ネットワーク計画の中でも平坦なところから優先的に進めている。西谷地域については、特に小学校に近いところなどの歩道整備も進めている。</p>
委員	<p>計画でまだないということか。</p>
建設室長	<p>具体的に自転車レーンを西谷地区でいつからといった計画はまだない。</p>
委員長	<p>引き続きバリアフリーの整備を進めるとあるが、目標の50%に全く届いていない。抜本的な取り組みが必要ではないか。目標は置いておいて、予算の範囲内でできるだけやるという状況になっているようにも見える。延長整備率では市民にとっては分かりにくいいため、箇所数や延長など、市民に分かりやすい指標にしてはどうか。次の計画ではその点も含めて作る方がよい。</p>

<p>【基本目標】教育・子ども・人権 【施策】児童福祉 【施策展開の方針】『4 家庭や地域の子育て力の向上を図るとともに、子どもの育ちを支援し、社会参加を促進します』</p>	
委員長	<p>指標では児童館の延べ利用者数が重要だと思うが、年々利用者数が減っており、昨年度は大幅に減少している中、今年度もコロナウイルスの影響でさらに減少すると予想できる。このことについてはどのように分析しているのか。</p>
子ども家庭室長	<p>児童数の減少に伴い、児童館の利用者数も年々減少している。コロナウイルスの影響により今年3月の利用者は少なかった。昨年度の保育の無償化の開始から、就学前のお子様についてはそちらを利用されたり、塾を利用される方も増えていることが影響していると考えている。</p>
委員長	<p>5年前に思っていた児童館のねらいや役割は現在も変わりがないのか、それとも児童館の役割が変わりつつあると考えているのか。良い活動が行われているとは思いますが、現実的に利用者は期待していたほどいないということで、その理由は何なのかということである。子どもの様子の変化しているため児童館も変わっていく必要があるのか、当初利用してほしいと思っていた子どもがその通りに児童館を利用しているが、ただ人数が少ないだけだと認識しているのかどちらなのかを聞きたい。</p>
子ども家庭室長	<p>中高生にも児童館を利用いただけるよう、開館時間を17時以降に設定するなど、誠意工夫はしているところではあるが、改善に至っていないのが現状である。利用者確保にむけてさらに工夫をしていきたい。</p>
委員長	<p>子ども達や社会に必要とされる在り方で児童館を運営いただきたい。目標値を達成していれば適切に運営されているということになるのだが、目標値が適切ではないのか、それともねらいが正しくないのか、どちらかがわかりにくかったため質問したところである。</p>
委員	<p>主な取組に「家庭教育の推進に向けて、成長過程別親育ち講座を開催します」とある。「家庭教育推進事業」の成果指標を見ると、内部評価では講座参加者を一定数維持しているとなっているが、そうではなく減少傾向にあると思う。改革案に何も記載がない状態であるが、親育ち講座は家庭教育では重要であるので、何らかの改革案を示して参加者数を増やしていく必要がある。</p>
子ども家庭室長	<p>親育ち講座については、第一子で生後3か月から10か月児と保護者を対象とした新米ママのふれあいタイムには199名の参加があり、2歳児と保護者を対象としたきらきら親子ふれあい講座には72名の参加があった。一定効果があると考えており、今後も充実させていきたい。</p>
委員	<p>「交通災害遺児援護事業」について、図書カードでなくなったことは個人的には良かったと思う。しっかりと必要な人に支給されることが重要であるため、広報誌、ホームページにより制度周知を図ると記載があるが、対象者の把握を行い、制度周</p>

	<p>知を行ってほしい。</p>
委員	<p>「母子生活支援施設利用事業」と「助産施設利用事業」について、評価表には事業内容がほとんど記載されていない。制度周知を図るとあるが、どのような形で行っているのか。</p>
子ども家庭室室長	<p>相談を受けた際に制度の案内を行っており、周知というまでは行っていない状況である。</p>
委員	<p>事業の概要は正確に記載した方がよいのではないか。</p>
子ども家庭室室長	<p>丁寧に記載するようにしたい。</p>
委員	<p>すでに発言があったが、「交通災害遺児援護事業」について、評価表の活動状況に、市内小・中学校に連絡して対象者の把握に努めるとあるが、市の方で遺児の数を把握しているということか。小学校の遺児であれば、申請方法等を理解することは難しいと思う。申請がなくても市から支給することができないのか。</p>
子ども家庭室室長	<p>あくまでも制度周知を行っただけでの把握ということになる。それ以上の把握は難しいと考えている。</p>
委員	<p>把握できるのであれば、市の方から対応してほしい。</p>
委員	<p>これは毎年支給されるのか。</p>
子ども家庭室室長	<p>毎年1月に支給をしている。</p>
委員長	<p>先程発言があった「母子生活支援施設利用事業」については、市が直営で行っているのか。費用がかかっているため、市の直営なのであれば市が行う必要性を記載する必要があると思う。民間に運営を任せ、施設数が増えることを期待した方が良い場合もある。</p>
委員	<p>困っている人にも制度の周知ができているのであれば利用者数が少なくても良いが、何も説明がなされていない状態であれば、制度が必要な人が利用できていないのではないかと感じてしまう。事業の実態と、必要な人は制度が利用できているという記載があれば説得力が増すのではないか。</p>
子ども家庭室室長	<p>周知と評価表の記載方法については再度検討する。</p>
委員長	<p>コロナウイルスの影響により経済状況が悪化する中、児童福祉にも影響があると</p>

<p>子ども家庭室 長</p>	<p>考えられる。どのように対応していくのか考えを聞かせてほしい。</p>
<p>委員長</p>	<p>児童虐待については、コロナ禍で学校等からの通報がなく、4月5月の通報件数が少なかった。家庭内で顕在していることがあるため、どのように周知確認しておくか課題であり、検討していく必要があると考えている。</p> <p>経済的支援が必要だが、景気が悪くなる中財源がないことが予想される。また、子どもを預けて働かなければならず、保育を満たさないといけない子ども達が増えることも予想されるが施設が足りていない状況である。相談体制も整えなければいけないと思うので、委員会としても答申の方で何か知恵を出していきたいと思う。</p>

<p>【基本目標】教育・子ども・人権 【施策】青少年育成 【施策展開の方針】『1 青少年を守り育てる環境づくりを地域ぐるみで進めます』</p>	
委員	「環境浄化事業」について、昨年度は事業費が0となっているが、そもそもどういったことに事業費がかかっているのか。
教育支援室長	確認をさせていただく。
委員	現在 CD を利用している人はどれだけいるのか疑問がある。
委員長	前回の審議の際にも指摘したが必要性があるのかとってしまう。有害図書となっているが実質は DVD だと思う。実績件数が 10,606 件と急増しており、13 個のポストを月 2 回収すると、1 つのポストに 1 回で 35 の有害図書を回収することになる。ダウンロードやヤフーオークション等が普及している中、どのような人がどのような物を入れているのか疑問である。
教育支援室長	DVD や VHS が入れられていることが多い。子ども達というよりも青年になられた方が入れられているのが現状である。回収は青少年センターの職員が行っている。センターとしては、自由に捨てられてしまうよりは、このような形で処理をしてもらう方が環境的に安全は守られるのではないかと捉えている。
委員長	その通りだと思うが、当初の事業の狙いとは変わっていると思う。
委員	「青少年育成事業」について、事業が始まったのが昭和 45 年で、常に同じことをやっているわけではないと思うが、風あげが今の時代にあっているのか、親子の絆が深まれば良いが、時代にあったやり方に変える必要があると思う。評価表にも、長年にわたり同じ役員で運営し、世代交代が難しいと記載されている。事業自体は地域で取組む大事なものだと思うので、実施方法の工夫が必要である。
教育支援室長	年に 1 回親子、祖父と孫で風を作り、風あげをしている姿を微笑ましく見せていただいている。そういう面で意味があると感じている一方で、風あげが時代に合っているのか、代わりはないかという検討は毎年行っているが、適当なものがみつからない。e スポーツが候補に上がったが、環境の整え方がわからず、現状風あげが続いている。
委員長	思春期ひろばは今年度も実施されているのか。
子ども育成室長	コロナウイルスの影響で一時休止していたが再開している。

<p>【基本目標】教育・子ども・人権 【施策】青少年育成 【施策展開の方針】『2 青少年の社会参加の機会を促し、未来の担い手として自立を支援します』</p>	
委員長	<p>評価が順調ではない、対応策が必要となっているが、主に記載されているのが貧困対策についてであり、このことは児童福祉の細施策1の方に主に該当するのではないかと思う。大事だとは思いますが、施策展開の方針にある青少年の社会参加の機会を促すということとは文脈が違うと感じる。</p>
子ども家庭室長	<p>文脈が違うところがあるとは思いますが、自立の弊害として貧困の問題があるということに記載をしている。</p>
委員長	<p>その通りだと思うが、やや間接的な繋がりのように感じる。ミニたからづか等を実施し子どもの参画機会を設けて、その効果を確かめ、実際に子どもの参加に繋がったか、参加したことが狙い通りになったか、打たれた大胆な施策の効果を検証し次の一手を打つなら理解できる。子どもの貧困の対策は別の施策で記載してほしいと感じた。事務事業構成の適正性についても推進に向けて対応策が必要となっているが、この記載内容からは実際にどうするのかは見えにくい。</p>
委員長	<p>児童福祉の審議の際にもお話したが、子ども議会やミニたからづかについては、今年度コロナウイルスのことがあったと思うが、対策を講じて今年度も実施してほしいかと個人的に思っている。子ども向けのホームページも費用がかかったと思うが整備されているので、子どもの参加の場として利用し、かつ効果も図る必要がある。この5年間は思い切った取組が行われており素晴らしいと評価しているが、効果について記載がなく、子どもの貧困について記載があると肩透かしな印象を受けてしまう。思い切って取り組んできたことの効果を記載したうえで、より推進していくのか、軌道修正するのかを決めて取り組んでほしい。</p>
委員	<p>主な取組に社会人の自立に向けて青少年の就労支援に取り組みますとある。事務事業には「就労支援事業（再掲2）」があるが、引きこもりの方への就労支援に関する事業がないため、その視点も必要だと思う。</p>
委員	<p>「20歳のつどい事業」について、10人の企画委員がボランティアとして夜間に会議を実施したほか、母校を訪問してビデオレターづくりに取り組んだとあるが、私としては成人式での記憶がほとんど残っていない。他市と比べて目玉となる企画もなかったと思う。若者自身がフォーマルな形で集い、成人を共に祝うことを望んでいると見受けられるとも記載されているが、単に昔の友達と会いたいと思っているのだと思う。ビデオレターの内容も以前のものから変更がないと思うので、市として魅力的な成人式となるよう取組を行ってほしい。</p>
委員長	<p>地方創生が進んでいる中、全国の自治体では高校と協働して行う取組が行われている。小さい町の方が進めやすいという面があるが、新しい取り組みを行って、高校生に地域のことを知ってもらい、良い体験をして愛着を持ってもらう例もあるの</p>

	<p>で、高校と連携して施策を進めてはどうか。また、大学の政策系の学部であれば、市役所と高校の間をつなぎ、高校生 YouTuber 養成講座を開講し、高校生が YouTube の基礎を学び、地域の特産物を紹介や名所巡りをして発信をしている。ぜひ検討してほしい。</p>
--	--

<p>委員長</p> <p>事務局</p>	<p>閉 会</p> <p>では、本日の審議を終了する。事務局より、次回の委員会の日時、審議内容等について、説明をお願いします。</p> <p>次回（第6回）の委員会は9月15日（火）15：00～17：30、会場は3－3会議室である。次回は、「評価のまとめ」について審議する。</p>
-----------------------	---